

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 753 号 令和 6 年 2 月

## 目次

○総務委員会及び第 4 回理事会開催報告（常務理事）	1
○令和 5 年度第 2 回小動物講習会のご案内	1
○令和 5 年度第 1 回小動物部会参加報告（山口支部 脇本雄樹先生）	3
○ニューレジリエンスフォーラム山口大会参加報告（会長）	4
○山口獣医学雑誌第 50 号発刊記念座談会開催報告（常務理事）	6
○リレー随筆「ととさんやあのののさんがかかさなか」（豊浦支部 弘中健人先生）	7
○ローマに行ってきました その 2 ポンペイで鍵を見つけろ（徳山支部 白永伸行先生）	8
○元日の震災に思う（防府支部 笠井亨浩先生）	10
○牛海綿状脳症（BSE）に関する特定家畜伝染病防疫指針の一部改正について（山口県農林水産部畜産振興課）	11
○令和 6 年能登半島地震動物救護活動等支援金の募集について	12
○山口獣医畜産専門学校・山口大学農学部獣医学科・共同共同獣医学部で卒業の皆様へのご案内（山口大学支部 上林聡之先生）	13
○山口大学動物医療センター小動物夜間診療の中止に関するお知らせ（山口大学動物医療センター）	14
○事務局日より	14

## 総務委員会及び第 4 回理事会開催報告

常務理事 酒 井 理

県獣医師会館において、①令和 6 年 1 月 11 日（木）13 時 30 分から総務委員会が、②令和 6 年 1 月 25 日（木）13:30 分から、第 4 回理事会が開催されました。

総務委員会には、委員全員に出席していただき、理事会には、理事 13 名中 11 名、監事 3 名全員に出席していただき、次の 2 件の議案について審議してい

ただきました。

第 1 号議案 山口県獣医師会館の取得について  
第 2 号議案 地方獣医師会会員組織率の向上対策について

第 1 号議案では、山口県獣医師会館検討会議におけるこれまでの検討状況を報告するとともに、今後

## 令和 5 年度第 2 回小動物講習会のご案内

下記のとおり開催します。皆様の参加をお待ちしています。

- 日 時：令和 6 年 2 月 25 日（日） 10 時～16 時（開場：9 時 30 分）
- 会 場：防長苑 2 階孔雀の間（山口市熊野町）
- 講 師：日本大学生物資源科学部 教授 枝村一弥 先生
- 演 題：犬と猫の健康寿命の延長のために動物病院でできる新たな試み
- 参加申込：令和 6 年 2 月 20 日（火）までに、本会事務局に申し込んでください。
- 参 加 費：本会会員は無料ですが、それ以外は次のとおり参加費をいただきます。  
学生：千円、愛玩動物看護師等：2 千円、その他（一般）：3 千円

◆昼休憩の時間にランチオンセミナーを開催します。

テーマ：製品紹介 犬用骨関節炎症状改善剤 カルトロフェン・ベット注射液

担当者：物産アニマルヘルス株式会社 西日本支店 松園隆司 氏

※ 令和 6 年 1 月 14 日（日）、山口市防長苑で開催した「令和 5 年度第 1 回小動物講習会」の録画とテキストを本会ホームページの会員専用コーナーに掲載しています。

会員の皆様の業務の参考にしてください。

○演 題：2023 年版 勝手に救急のいろは ～救急診療現場のリアルをお届け～

○講 師：TRVA 動物医療センター（東京都）院長 塗木貴臣 先生

の対応について諮りました。

#### 《事務局説明》

- ・職域別会員数の割合に応じて選定した4名の検討委員により、これまで、7回の会議を開催した
- ・令和4年12月に開催された第3回検討委員会において、①現在の場所に建替、②他の場所に建替、③中古マンション等の購入、④賃貸の4つの取得方法案について比較検討した結果、「平成24年度の当初計画に沿って、取得資金の範囲内で現在の場所に建築する」が最も良い取得方法であると結論づけられた
- ・この結果を、令和4年度の総務委員会、支部長会議、理事会において説明し、了承を得るとともに、本会会報（令和5年4月号）に掲載して、会員の皆様に報告した
- ・積立資金の範囲内で新たな会館を取得するため、新会館の基本的な仕様を次の5点とし、複数の建築会社に提案を求めた
  - ①現在の会館を解体し、同じ場所に2階建の新会館を建築すること
  - ②建築費を押さえるため、木造又は軽量鉄骨造りとし、利用可能な既存設備を活用すること
  - ③建物の材質は、将来の補修等、維持管理経費が少ないものとする
  - ④最低限必要な「事務室」、「役員・応接室」、「会議・図書コーナー」を設けること
  - ⑤耐震性等長期優良住宅の認定条件は満たすが、建物のグレードは高めないこと
- ・提案があった5社の内容を比較検討し、本会が示した基本的な仕様を組み込んでおり、費用が最も安く、積立資金の範囲内で取得できると見込まれる事業者と協議を継続することとした
- ・協議を継続している事業者の提案内容は、下記のとおり木造総2階造りで、陶器の瓦とサイディングの外壁で、30年の長期耐久が保証されている
- ・1階に「事務室」と「役員・応接室」、2階に「会議室・図書コーナー」を設けている
- ・建物の内装等、細かい仕様については、検討会議で、意見を詰めている
- ・現会館の解体、新会館の建築、仮事務所、引越、備品など、新会館の取得に関する経費は、新会館取得のための積立額の範囲に収まる見込み
- ・今後のスケジュールは、総務委員会・理事会で承認を得たのちに、事業者と契約を締結し、第5回理事会で、新会館取得に関する経費を含めた令和

#### 《協議を継続する事業者の提案》

- ・規模構造：木造2階建
- ・建築面積：99.37㎡
- ・建築延面積：195.10㎡（参考：現会館の延面積 337.50㎡）
- ・外構・駐車場：ブロック・ネットフェンス、アスファルト舗装
- ・工事期間：4～5か月間（令和6年度着工予定）
- ・施設設備：

区分	施設・設備	床面積
1階	事務室、役員・応接室、書庫、湯沸室、トイレ	95.73㎡
2階	会議室・図書コーナー、倉庫、トイレ	99.37㎡

- 6年度事業予算等について審議していただく予定
- ・6月の定時総会で、新会館取得を含めた令和6年度の事業計画について報告した後に、現会館の解体・新会館の建築に着手したいと考えている

総務委員会及び理事会において、協議を継続する事業者の提案による新会館の取得が承認され、今後、事業者との契約締結や建設に係る予算作成等の作業を進めることになりました。

第2号議案では、地方獣医師会会員組織率の向上対策について、現在の取組みと今後の対応について諮りました。

#### 《事務局説明》

- ・本会への入会は、各支部を通じて呼びかけており、県や農業共済組合などの勤務獣医師は、所属を通じて入会を働きかけ、ほぼ全員入会されている
- ・小動物分野では、未入会の勤務獣医師があり、動物病院の院長を通じて入会を呼びかけている
- ・山口大学共同獣医学部では、基礎系の教官の加入が少ないので、個別に入会案内を通知している
- ・昨年理事会で承認された「会員の休会に関する規程」について、現在、県と農業共済組合の育児休業中の2名の女性獣医師がこの制度を利用されている
- ・新獣医師会館の取得に向け、減価償却引当金の積立額を引き上げるため、平成14年度の新規入会者から入会費として、1万円ずついただいていたが、新会館の建設の積立は、今年度で終了する予定であるので、来年度からは、従前の形に戻して、入会費を徴収しないこととしたいと考えている

総務委員会及び理事会において、令和6年度から入会費を徴収しないことが承認されました。

今年度まで、入会費を納められた会員の皆様には恐縮ですが、御理解いただきますようよろしくお願いいたします。新会館の取得にご協力いただき、ありがとうございました。

#### その他の協議事項

理事会において、令和6年度定時総会を次のとおり開催することが決議されました。

○日時：令和6年6月9日(日)

①定時総会：14時～

②交流会：総会終了後（16時～予定）

○場所：防長苑（山口市熊野町）

## 令和5年度第1回小動物講習会参加報告

山口支部 脇本雄樹

(西京の森どうぶつ病院)

令和6年1月14日(日)、山口市防長苑で開催された令和5年度第1回小動物講習会に参加しましたので、概要を報告します。

TRVA動物医療センター(東京都)の塗木貴臣院長をお招きして、「2023年版 勝手に救急のいろは～救急診療現場のリアルをお届け～」と題し、臨床現場で起きている事例を交えながら、5つの項目(犬のショック、心原性肺水腫、中毒、猫の尿道閉塞、心原性肺水腫および血栓塞栓症)について、分かりやすくご説明頂きました。

臨床現場ですぐに役立つことも多く、出席した県内外の獣医師、愛玩動物看護師、学生など計60名が大いに刺激を受けたことと思います。講習会内容の全てをお伝えすることはできませんが、私なりの心に刺さった言葉やポイントをいくつか列挙いたします。

### 1) 総論

- ・救急のコツさえ掴めば、動物が死ななくなる

### 2) 犬のショック

- ・ショックを制するものは、救急を制する
- ・主訴で分からない場合や症例のカラ元気(代償期)に騙される場合があり、症例が確実に死に向かっているにも関わらず、実はすぐ見逃しやすい! ⇒ つまり、ショックは我々が見つけにいかねばならないものである
- ・「脈が触れます」とスタッフに言われても、安心はできない ⇒ 大腿動脈や足背動脈が触れないのは間違いなくヤバい。しかし、脈が触れていても大丈夫とは限らず、低血圧の可能性があるので注意が必要

### 3) 犬の心原性肺水腫

- ・肺エコーにおける解釈として、肺は見えないが何か写っている ⇒ 胸膜を介したアーチファクトに変化があれば、肺での変化があることが読み取れる。その変化の1つがBラインで肺水腫
- ・チアノーゼは「ない方」が怖い!? ⇒ チア

ノーゼがあるのは低酸素ありとの判断で良いが、チアノーゼがない場合でも低酸素の有無は不明で安心できない

### 4) 中毒

- ・夜間救急の現場では誤飲誤食がめちゃ多い ⇒ TRVAでは診療件数の約12%(症例数第2位)を占める
- ・バファリンを飲んだ場合は、現物を持ってきてもらおうと良い ⇒ バファリンは種類によって成分に違いがある。バファリンの何なのかが大事

### 5) 猫の尿道閉塞

- ・尿閉が来たら、「よし!尿閉解除だ!」ではない ⇒ 超ヤバい尿道閉塞の対応方法でのステップ1は、不整脈、高カリウムの治療(心肺停止を防ぐ)。ステップ2でK上昇を防ぐための原因治療である。尿閉解除前に心停止してしまわないように
- ・尿道閉塞への対応として、尿カテが入らない・抜けないにならないように、あらかじめ防ぎ努力をすること ⇒ エコーだけで終わらずに処置前にレントゲンを撮影する、導尿処置後にエコーでカテ先端の位置を必ず確認すること

### 6) 猫の心原性肺水腫および血栓塞栓症

- ・心原性肺水腫のレントゲン像は犬とは全然違う ⇒ 透過性の低下部分は、後背部とは限らない
- ・ATEにおいて、直腸温37.2℃は生存率50%のライン ⇒ 37.2℃以下は予後不良因子の1つ

塗木先生の講習会后、一週間あまりの間でも肺水腫や尿道閉塞などの症例が来ています。当院においても、スタッフと共に救急診療のアップデートを常に行い、一頭でも多くの動物が死なないように引き続き精進していきたいと思っております。

※講習会の録画とテキストを本会ホームページの会員専用コーナーに掲載しています。会員の皆様の業務の参考にしてください。(事務局)



講演される塗木貴臣先生



質問される羽迫広人先生（宇部厚狭支部）



会場の様子



ランチョンセミナーを実施したGEヘルスケア・ジャパン社 GE超音波診断装置の展示

## ニューレジリエンスフォーラム山口大会参加報告

会長理事 田中尚秋

令和6年1月21日(日)、かめ福オンプレイス2階「プリンスホール」(山口市湯田温泉)において、ニューレジリエンスフォーラム主催、自民党山口県連共催により、ニューレジリエンスフォーラム山口大会が開催されました。

県医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会等医療関係者をはじめ、経済界、自治体、防災関係等から参加者約600名、本会へも20名の参加要請があったため(本会は「山口県呼びかけ人会」の一員として令和3年8月設立時から参加)、理事・監事、支部長、部会長等、近隣にお住いの会員の皆様方を中心に参加をお願いしました。

ニューレジリエンスフォーラムは、感染症と自然災害に強い社会をつくるために、広く各界と連帯し緊急

事態に対応する国民的論議を推進することを目的として令和3年6月設立された団体(日本獣医師会、藏内勇夫会長も発起人の一人)で、政府や各党に対して今まで三度にわたる提言が行われています。

- ・第1次提言「『緊急時』の医療供給体制と法制度の整備を」(令和3年9月7日)
- ・第2次提言「『平時』から『緊急時』対応への円滑な移行と緊急財政支援を」(令和4年5月17日)
- ・第3次提言「国民の命と生活を守るため緊急事態に即応できる法整備を」(令和5年7月24日)

令和5年通常国会において、内閣に内閣感染症危機管理統括庁が、厚生労働省の直轄下に国立健康危機管理研究機構が設置されるなど、第1次提言の内容の

いくつかはその後の政府の政策に反映されています。

今回の山口大会は、山口県呼びかけ人会世話人の吉田充宏氏（山口県議会議員）の司会進行のもと、能登半島地震で被災された皆様に対する黙祷の後、開会。国歌斉唱、出席者紹介の後、山口県呼びかけ人会共同代表の加藤智栄氏（山口県医師会長）による主催者代表挨拶から始まりました。

来賓として高村正大衆議院議員、北村経夫参議院議員、村岡嗣政山口県知事、柳居俊学県議会議長の挨拶があった後、「この国の行方ー日本の在るべき姿ー」と題してジャーナリスト櫻井よしこ氏の講演がありました。災害時対応、自衛隊の位置づけ、戦争有事に備えるためにも憲法改正が必要であるという論調でしたが、過激な発言もみられ、小職としては少し違和感を覚えた次第です。

続いて、ニューレジリエンスフォーラムからの活動・提言報告があり、企画委員長である松本尚先生（日本医科大学特任教授・衆議院議員）によるビデオ講話がありました。先生は、DMAT（災害派遣医療チーム）の一員としてたびたび災害現場に赴き、医師として医療業務をされていた方ですが、現場の声を中枢に伝えることにハードルが高いこと等を経験さ

れ政界入りを決意されたそうで、ニューレジリエンスフォーラムの意義等を熱く語られました。日本のドクターヘリによる病院前救急診療の第一人者といわれる先生だけあってなかなか説得力のあるお話でした。

さらに、濱口和久事務局長(拓殖大学特任教授・防災教育研究センター長)から提言報告がありました。

感染症と自然災害に強い社会をつくるための5つの提言として、

- 1 機能する危機管理の司令塔を
- 2 現場の声を生かす体制の構築を
- 3 中小企業を支える緊急支援を
- 4 緊急事態に即応できる法整備を
- 5 憲法に基づく緊急事態宣言の発出を

が示されています

次に、山口県呼びかけ人会共同代表の平岡英雄氏（山口県経済同友会代表幹事）から「主催者代表まとめ挨拶」があり、最後に笠本俊也県議会議員（自民党山口県連憲法改正実現本部長）による決意表明・ガンバローコールで閉会となりました。

せっかくの日曜日にも拘わらず快くご参加いただいた会員の皆様に厚くお礼申し上げます。



講演される櫻井よしこ氏



壇上の引受人会のメンバー

## 山口獣医学雑誌第50号発刊記念座談会の開催について

常務理事 酒 井 理

山口県獣医学会の機関誌として年1回発刊されてきた山口獣医学雑誌は、今年度第50号を発刊することとなりました。

この節目を迎えるに当たり、これまでの歴史・意義を再確認するとともに、獣医学術の振興・普及、獣医療技術の向上に向けた取組みをさらに充実させるため、令和5年12月21日(木)、県獣医師会館において、座談会を開催しました。

熱心な討論の中で、貴重なご意見・ご提言をいただきました。ありがとうございました。

座談会の概要は、現在編集作業を進めている山口獣医学雑誌第50号の巻頭部分に特別企画として掲載します。

《テーマ》

- ①山口獣医学雑誌について
- ②山口県獣医学会について

③山口大学や山口県との連携について

④獣医学術の振興・普及、獣医療技術の向上に向けた取組みについて

《出席者（敬称略・順不同）》

- ・度会雅久（山口獣医学雑誌編集委員長・山口大学共同獣医学部学部長）
- ・中市統三（山口県獣医師会学会運営委員長・山口大学動物医療センター長）
- ・河村 章（山口県環境生活部生活衛生課長）
- ・小川賀雄（山口県農林水産部畜産振興課長）
- ・山縣 宏（山口県獣医師会学会運営委員）
- ・網本昭輝（山口県獣医師会学会運営委員・アミカペットクリニック院長）
- ・田中尚秋（山口県獣医師会会長）
- ・白永伸行（山口県獣医師会副会長・シラナガ動物病院院長）



## リレー随筆

### ととさんや あの ののさんが かかさんか

豊浦支部 弘 中 健 人  
(西部家畜保健衛生所)

中部家畜保健衛生所の田代久宗先生からバトンを預かりました。最近、考え深いものを読みましたので紹介しようと思います。

題名の俳句は3歳で母を亡くした小林一茶の句です。一茶には、母を慕って書いた文や句が見あたりません。たぶん物心のつく前に母を失ってしまったので、母といえば、口にふくんだ乳の甘さだけが想いとなって残っていたぐらいのものだと思われます。

この句は、一茶が8歳になった時、父の弥五兵衛に後妻が来るまでの約5年間、父と祖母と3人で暮らした時期を追憶して詠んだ句と思われます。たぶん、父は淋しがる一茶を気遣って、「坊のお母さんは・・・・・・・・、といて仏壇を指さしたり、むずかる一茶に、「ほら、かかさんが見ておるよ」なんて言っていたに違いありません。だから一茶はかかさんという時、すぐ、ダブルイメージで仏さまを連想していたのであります。幼い一茶が紅葉手で仏さまを指さし、自分に納得させるように父に語りかけている光景が彷彿されます。

1人の人間の人格や、思想を考える時、その人の生まれ育った精神的風土を抜きにしては語ることはできません。

一茶は長野県柏原で生まれてそこで死にました。一茶の生まれた柏原は、ほとんどが浄土真宗の門徒であります。したがって一茶一族もすべて門徒で、現在の長野県上水内郡信濃町柏原の明専寺の門徒だったようであります。一茶は幼少期より囲炉裏を車座に囲んで催された講の集いに、いつも父と共に参加していたであろうことは想像するに難くありません。正信偈の読誦を子守唄に聞き、法義示談に華が咲いた、いわゆる「お講さま」という雰囲気の中で育てられたことが、一茶の生涯の思想形成に大きな役割を果たしたに違いありません。

一茶の生涯は暗いです。3歳で母を失い、継母にじめられ、14歳で丁稚奉公に出され、財産相続で争い、50を過ぎて妻をめとり、生まれた子供は次々と夭折し、妻に先だたれ、家は焼け、病気に苦しみ、後妻を貰ったが中風（ちゅうふう：脳卒中や脳血栓などの脳血管疾患）を煩い、子供が後妻に宿ったが、その顔も見ずに息をひきとるといふ、苦難の生涯でありました。しかし一茶は、その1つ1つに耐え、しかも、その逆境を俳句の世界まで昇華させることで処理した精神は、幼き日に培われた宗教性を抜きにしては考えることができません。自己犠牲感を人生観の基底におき、与えられた環境の中で忍従的に地味な努力を続け、その怒り、その喜び、その温かさを俳句で燃焼させた一茶は、なんともいえぬ魅力が

あります。

一茶は人間としての悲しみや喜びを隠すことなくさらけ出しました。しかし自分の苦悩を取り除こうとしたのではありません。一茶はこれを避けようとするほど、忍び寄ってくることを知っていました。

真宗では仏さま（阿弥陀さま）のことを親さまといひます。親さまであるがゆえに、すべてを許し、助け導いてくださるのです。人間の性（さが）のすべてを知り尽くされた親さまの前で隠すことなき安らぎがあるのです。

一茶という、煩惱くさい人間が、なお魅力ある人として今も生きているのは、常に真宗的安心の匂いを発散させているからだと思われます。

一茶の代表的な俳句の作品

- ・すずめの子 そこのけそこのけ お馬が通る
- ・春風や 牛に引かれて 善光寺
- ・やせ蛙 負けるな一茶 これにあり
- ・やれ打つな はえが手をする 足をする
- ・雪とけて 村一ぱいの 子どもかな

一茶の背景を知ると、俳句の味わい方が変わると思ひます。

今回は、予備校時代からお世話になっている農林総合技術センター畜産技術部の齋藤陽之先生にバトンをお渡しします。よろしくお願ひします。



## ローマに行ってきました その2：ポンペイで鍵を見つけろ

徳山支部 白 永 伸 行

(シラナガ動物病院)

昨秋にローマに行った続きです。前回の整形外科シンポジウムを無事エントリーして、ウェルカムパーティーでワインを美味しく飲んで、翌日は講義があまり疎い内容だったので、朝からローマテルミニ駅に向かいました。テルミニ駅は「ジョジョ第5部」で「デモールト！」で名高いメローネが毒蛇に噛まれて最後を遂げる、イタリアでいうところの東京駅みたいなもので、中核のターミナルです。ただしホームは26番線までありますが、全部1階横並びで東京駅や新宿駅みたいなダンジョン感はありません。そこからFRECCIA ROSSAという新幹線みたいな高速鉄道に乗りました。しかしイタリアはほぼ平面を走るので高速でも非常に安定しています。チケットはネットで購入できるので外国人でも簡単に購入できます。その中でグリーン車みたいな食事付きのExecutiveシートをゲット。朝食にクラブサンドとエスプレッソを頼みましたが、本当にかっこいいバリスタがシートの目の前で注いでくれます(頼めばワインも出ます)。しかし高速ゆえ車内を楽しめど1時間半でナポリへ。ナポリ駅から支線の乗り換えが煩雑でかなり迷いましたが「For Pompei?」と片っ端から聞くと多くの外国人観光客が「I hope」と答えられてなんとなく迷い子達が固まるようになりました。そしてCircumvesuviana(ヴェスヴィオ周遊鉄道)に乗りPompei Scavi駅で降車。目の前には全部見るにはまる2日かかるという広大なPompei遺跡に到着しました。

今回の目的はズバリ「ジョジョ第5部」の「ボスからの指令を受けてPompeiの犬の床絵で鍵を拾う」という情景を体感したいのです。入り口にROSYさんという日本語ガイドと待ち合わせました。彼女は40代で東京に5年ほど住んでいたとのこと。遺跡からヴェスヴィオ火山が見えるところで写真を撮り、その光景に「ここが西洋の鹿児島桜島なんだな」と妙に納得して犬の床絵へ。Pompei遺跡は古代にしては都市機能が発達し、その根源は治水にある。とROSYさんから教わりました。道中の用水路の説明を受けながら犬の床絵に到着したそこにはなんと興奮めなアクリルの防護板がある。非常に美しくないのですが、あまりに有名なこの絵に鍵を落として見つけた！とパフォーマンスする輩が多く、昔日本の旅行会社が聖地巡礼ツアーを組み何か迷惑をかけたためアクリルで防護されてるんだとのこと。その説明を受けてROSYさんに「申し訳ないんですが、僕も鍵を持ってきてるので写真撮ってください」と頼みづらかったこと。その後時間が

余ったので何が見たいか？と聞かれおまかせというところ「大抵の日本人が喜ぶもの」とくすくす笑いながら人だかりの方へ。「これをみてくださいっ！」というピクトグラムみたいなものはまさに男性の生殖器。「日本の男の人、これ好きでしょ！私五反田に住んでいても思いました！」と言いながら連れて行かれたのは古代の特殊入浴場跡(売春宿?)。日本の誤解をガイドの仕事に活かそうとすることに恐怖を覚えて遺跡に入ると世界中の観光客でごった返しており、「日本だけではない。世界中の人々の関心ごとですよ」と日本の誤解を修正して、嗜めておきました。

イタリアに来てろくにパスタを食べてないのでナポリ駅に戻って探したがパスタなんてどこにもなし。ナポリと言えばナポリピザなのです。しかしトラブルで食べられず、しかもナポリは治安が悪そうで裏路地に入るとボコボコにされて2度と日本に戻れなさそうな雰囲気なのでナポリ駅で次の活動。ナポリ駅6番ホームの水飲み場です。「ジョジョ第5部」ではここにいる亀に鍵をはめると亀の甲羅がシェルターになっています。世界中のジョジョラーはこの水飲み場に行くのですが、なんと！ナポリ駅は近代化されて水飲み場は撤去されてます。結局6番線ホームには味気のない近代的な消火ホースが格納されているのでそこに亀を置いて写真を撮りました(亀も鍵も日本から持参)。

こうしてナポリの聖地巡礼は最後にフィレンツェ行き超特急に乗ってローマに戻りました(本当はウディネーゼ行きだが俺の覚悟はできてました)。最終日は真実の口(ジョジョ第2部で柱の男たちが収納されている地下の入り口)からバルベリーニ広場(第2部でシーザーがジョジョと出会うトリトネの噴水がある場所)～コロッセオ(第2部でワムウ、カーズ、エシディシと出会い、第5部の最終決戦地)を回りながらお土産のチーズを探し回ったという感じで日本に戻りました。

最後の感想としてイタリアはローマの町中が博物館とはよく言ったもので、2000年ほどの建築物の保存が綺麗であることは感動的です。また農産国であり食の宝庫というほどのとても美味しい料理に巡り合い、ローマの定番であるカルボナーラは生クリームを入れるのは邪道(うっかりするとすぐ固くなるけど)など勉強になることもあったが、イタリア料理が日本に普及している理由として、この味を日本で再現したい(だから料理人になろう!)と思うんだなという美味しい共感を得ることができました。





Frecciarossa (イタリアの新幹線)



ガイドのROSYさん



コロッセオ



ポンペイ遺跡は用水路が発達して都市が栄えたとのこと



犬の床絵と鍵を置く (見つけた) 筆者



真実の口



ローマテルミニ駅



ヴェスヴィオ火山。桜島と似てるから鹿児島が東洋のナポリなのです



ナポリ駅6番ホーム



ポンペイ遺跡のマップ。蛇に注目



バルベリーニ広場とトリトーネの噴水

## 元日の震災に思う

防府支部 笠井 亨 浩

(農林総合技術センター 農林業担い手支援部)

今年は1月1日に能登半島地震、2日には羽田空港にて航空機の衝突事故と立て続けに大きな出来事がありました。また、この地震で被災された方々や各復旧作業に携わっている方々が少しでも早く普段通りの生活を取り戻せる事を願っております。

大きな地震のニュース、特に緊急地震速報のアラートを聞くと、たとえ当事者でなくても身のすくむような気持ちになります。私は過去2度の大地震を阪神では当時小学校6年生で兵庫県三木市（神戸市の北西に隣接）、東日本では東京都の墨田区押上で経験しました。東日本大震災の時はちょうどその半年前に仕事を辞め、獣医学科を受験していた時でした。

2つの大地震を色々と異なる条件下で経験しましたが、共通していたのは震災直後の連絡手段に苦労した事です。いずれも電話回線がパンクし、当時一般的であった音声通話による連絡手段が使えなかったのを覚えています。阪神大震災の時には固定電話は早々に回線がパンクし、当時普及率が1%程度だったという携帯電話は基地局が生きていれば使用することができました（車載電話も同様）。震災当時我が家では携帯電話を連絡手段として用いていましたが、それが使えたのは震災の当日～翌日位で、

それ以降は携帯電話の回線がパンクし固定電話が復旧しだすという現象が起きたのを覚えています。一説には復旧関係者が県外から携帯電話を大量に持ち込んだ事で当時の少ない回線のキャパシティを超えてしまったと言われていました。一方、東日本大震災の時は既に普及していた携帯電話の回線がパンクし、私は当時やっていたアメーバブログのコメント欄を使って家族と連絡を取り合っていました。当時はLINEなどのトークアプリはまだ普及してなく（LINEは2012年より日本でサービス開始）、震災直後の連絡手段としてはTwitter（現X）が大活躍した事を覚えています。今回の能登半島地震では、様々なSNSが連絡手段に用いられましたが、Xに関しては収益化アカウントによるインプレッション稼ぎのデマツイートが問題となりました。

このように災害時の連絡手段は時代によって変遷を遂げていますが、皆様もご存じかもしれませんが阪神大震災を教訓としてNTTをはじめ通信各社より災害用伝言ダイヤルや災害用音声お届けサービスというのが災害発生時には開設されます。NTT東西の災害用伝言ダイヤルは1998年に初開設されています。皆様もこの機会に連絡方法をはじめ災害発生時の対応をご家族の間で取り決めておいては如何でしょうか。

# 牛海綿状脳症（BSE）に関する特定家畜伝染病防疫指針の一部改正について

山口県農林水産部畜産振興課

家畜伝染病のうち特に総合的に発生の予防及びまん延の防止のための措置を講ずる必要があるものについて、国は家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号）第3条の2第1項に基づき、特定家畜伝染病防疫指針を作成、公表しています。

牛海綿状脳症（BSE）に関する特定家畜伝染病防疫指針が、令和5年11月14日付けで一部改正され、令和6年4月1日から施行されることとなりました。

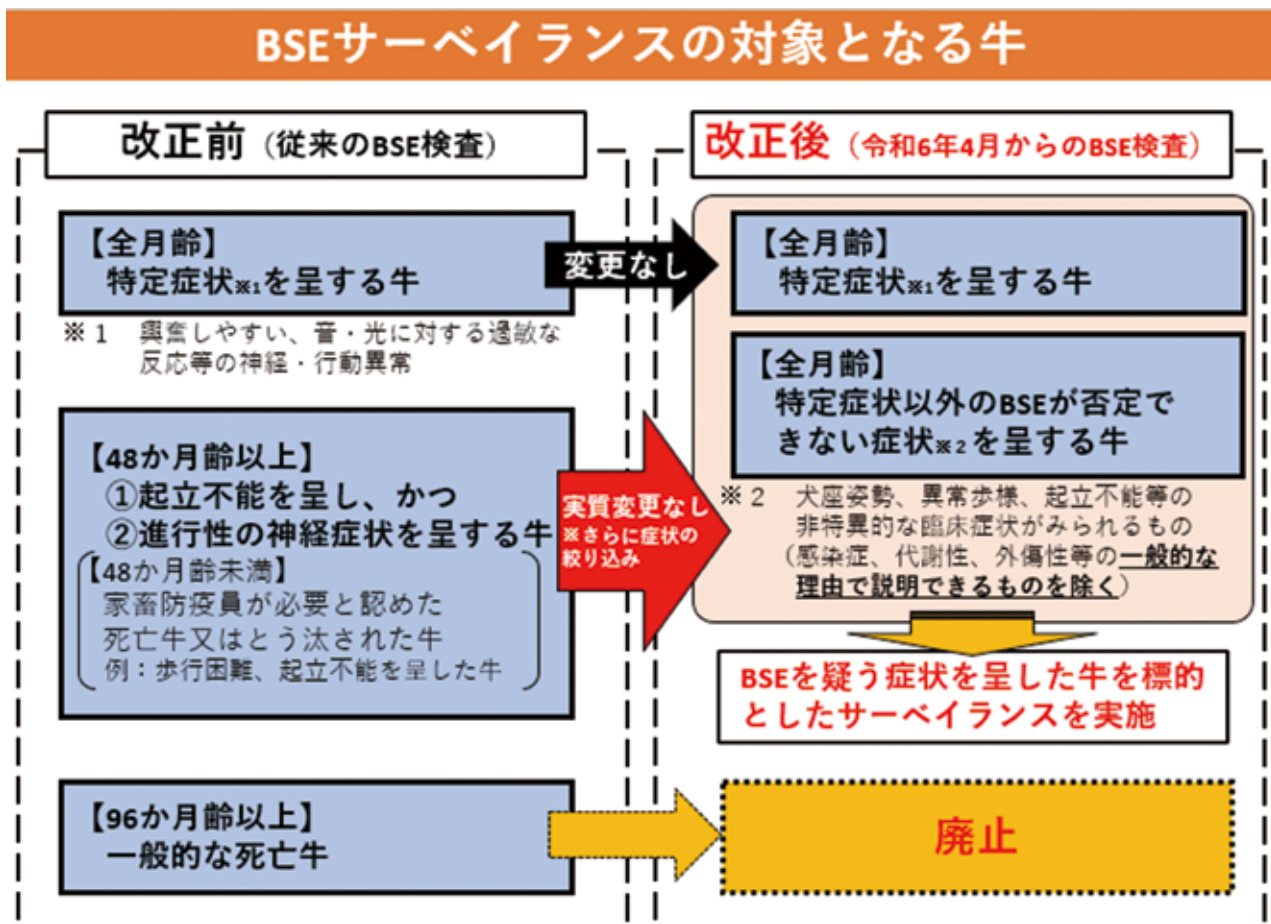
このたびの改正により、サーベイランスの対象牛が、96か月齢以上の死亡牛、48か月齢以上の起立不能牛

等からBSEを疑う症状（以下、特定症状等という。）を呈した牛に変更されることとなります。

つきましては、特定症状等※1※2を呈した異常牛については、指針に従い当該牛及び同居牛の臨床検査、当該牛の経過観察、飼養家畜の移動自粛等の措置を行うこととなりますので御協力よろしくお願います。

また、検査頭数の大幅な減少が見込まれることから、令和6年4月1日から検査機関である中部家畜保健衛生所は土日祝日が閉庁となりますので御承知ください。

○指針の一部改正の概要



# 令和6年能登半島地震動物救護活動等支援金の募集について

日本獣医師会から、次のとおり募集要領が示されました。

趣旨に賛同される方は、令和6年2月16日（金）までに、本会事務局に連絡して下さるようお願いいたします。

## 公益社団法人 日本獣医師会 「令和6年能登半島地震動物救護活動等支援金」 募 集 要 領

### 1 趣 旨

日本獣医師会は、令和6年能登半島地震における被災動物の救護及び獣医療提供体制の復旧等の支援を目的として「令和6年能登半島地震動物救護活動等支援金」を募集する。

### 2 支援金の名称

令和6年能登半島地震動物救護活動等支援金

### 3 募金の期間

令和6年1月10日から当分の間（募金の募集期間は、現地における動物救護活動等の推進状況を踏まえ決定する。）とする。

### 4 支援金の募集

会員地方獣医師会は、前記1の趣旨を受け、会員構成獣医師及び一般市民からの支援金の募集活動に当たっていただき、取りまとめた支援金（自らの拠出を含む。）を支援金振込口座に振り込むこととする。

### 5 支援金の使途、取扱いについて

一般寄附金は、寄附総額の50%以上を定款第4条に規定する本会事業（公益目的事業）に使用する。

前記4により所定の支援金振込口座に入金された支援金は、令和6年能登半島地震における被災動物の救護及び獣医療提供体制の復旧等の支援に充てる。

### 6 税の優遇措置

本会は、内閣総理大臣より「公益社団法人」としての認定を受けているので、本会への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられる。また、税額控除に係る証明を取得しているため、個人様の寄附については前記の所得税又は所得控除のいずれか一方を選択することができる。

また、受領書（領収書）を必要とされる際は、①会員構成獣医師及び一般市民が地方獣医師会へ送金した日付、②氏名（受領書に記載する氏名）、③住所、④募金金額を取りまとめの上、メール（soumu@nichiju.or.jp）にてご連絡願います。後日、本会から地方獣医師会に当該会員構成獣医師及び一般市民あての受領書（領収書）を郵送する。

## 山口獣医畜産専門学校・山口大学農学部獣医学科・同共同獣医学部 ご卒業の皆様へのご案内

山口大学支部 上 林 聡 之

(山口大学獣医学科創立80周年記念事業委員会)

山口大学獣医学科は、2024（令和6）年をもちまして山口高等獣医学校の設置から創立80周年の記念すべき年を迎えます。その歴史を振り返ってみると、1944（昭和19）年1月に獣医学科の前身である山口高等獣医学校が吉敷郡小郡町に設置され、翌1945（昭和20）年3月に山口獣医畜産専門学校と改称されました。その後1948（昭和23）年に、戦後新設大学である山口大学へ農学部獣医学科として参加することになり、60年以上にわたり農学部獣医学科として多くの獣医師を輩出してきました。そして2012（平成24）年からは、その輝かしい歴史を引き継ぎつつ、全国で初めてとなる共同学部として共同獣医学部獣医学科が設置され現在に至っています。

このたび、山口大学獣医学科としての記念すべき創立80周年を迎えるにあたり、ご出身の皆様と慶びを分かち合い、山口高等獣医学校から共同獣医学部へと歩んできた道を振り返り、その軌跡を明らかにすると共に、今後のさらなる前進と飛躍を期し、将来の理想に向かって躍進させることは真に意義あることと考えています。このような趣旨を踏まえて、今回、別紙記載の80周年記念事業を計画いたしました。皆様におかれましては、これらの事業内容にご理解をいただき、何とぞ本趣旨にご賛同、ご支援、ご協力を賜りますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

### 記念式典・記念講演会・記念祝賀会のご案内

期日：2024年（令和6年）10月26日（土）

会場：かめ福オンプレイス（山口市湯田温泉4-5-2）



山口大学共同獣医学科創立80周年  
記念事業公式サイト



寄付について

<お問い合わせ先>

〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1 山口大学獣医学科創立80周年記念事業窓口

E-mail; vet80th@yamaguchi-u.ac.jp

## お知らせ

## 山口大学動物医療センター 小動物夜間診療の中止に関するお知らせ

当センターでは2016年10月より犬・猫を対象とした夜間救急診療を開始しました。地域の伴侶動物獣医療に貢献すること、また夜間救急に対応できる人材を育成することを目的として、人員の限られるなか診察を行っておりましたが、このたび諸般の事情により診療の継続が困難な状況となりました。したがって、2024年1月29日（月）の診察をもって夜間診療を中止させていただくこととなりました。

山口県内の先生方、ならびに患者の皆様にはご迷惑をおかけすることとなりますが、何卒ご理解の程をよろしくお願い申し上げます。

2024年1月4日 山口大学動物医療センター  
センター長 中市 統三

## お知らせ

## 今後の主な行事(予定)

- 2月2日 ・ 獣医学教育改革推進連携協議会（山口大学）
- 2月6日 ・ 馬飼養衛生管理技術講習会（山口グランドホテル）
- 2月9日 ・ 山口県動物由来感染症検討会議（県庁）
- 2月13日 ・ やまぐち働き方改革シンポジウム（山口グランドホテル）
- 2月15日 ・ 第2回支部長会議（県獣会館）
- 2月17日 ・ 第4回福岡県ワンヘルス国際フォーラム（福岡市）
- 2月25日 ・ 第2回小動物講習会（県獣会館）
- 3月14日 ・ 第5回理事会（県獣会館）
- 3月18日 ・ 家畜保健衛生所業績発表会
- 3月22日 ・ 山口大学卒業証書授与式（山大）

## 事務局だより

- 1月11日 ・ 総務委員会（県獣会館）
- 1月14日 ・ 第1回小動物講習会（防長苑）
- 1月21日 ・ ニューレジリエンスフォーラム山口大会（かめ福オンプレイス）
- 1月25日 ・ 第4回理事会（県獣会館）
- 1月26日 ・ 山口コンベンション協会情報交換会（ホテルニュータナカ）
- 1月30日 ・ 会報編集委員会（県獣会館）
- 11日・25日 ・ 事業推進会議

次回編集委員会 2月20日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第753号 令和6年2月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷